平成２０年度長期社会体験研修修了報告書

研修者名　井田　綾　（高等学校教諭）

研修先企業・部署名　上毛新聞社・編集局

１　研修内容

（１）新入社員研修【４月１日～４月１４日】（研修場所：上毛新聞社本社）
◇本社、関連会社などの概要、社会人としての心構え、記事作成ソフトやカメラの使い方など。
◇尾瀬研修【７月３～４日】：体力の育成と尾瀬湿原についての研修

（２）高崎支社【４月１５日～６月１６日,1月１日～３１日】（高崎市役所内記者クラブ）
◇絵画展、作品展、各地区公民館行事、学校行事や地域開放講座、連載企画、高校野球県大会のチーム紹介などの取材と記事の作成 。催し物などの告知記事の作成。

（３）編集局写真部【６月１７日～３０日,１０月１６日～１１月１５日】（本社）
◇季節の花、ザスパ試合、フロント面の絵解き写真、県民マラソンなど。

（４）編集局運動部【７月１日～３１日】（本社）
◇高校、少年、壮年、還暦野球、ゴルフ、中学生総体など各大会の取材と記事の作成。

（５）前橋支局【９月１日～１０月１５日,１１月１６日～１２月３１日,2月１日～１５日】（前橋市役所内市政記者クラブ）
◇学校行事、絵画展など催し物の取材と記事作成、催し物、連載企画などの告知記事作成。

（６）編集局編集部【２月１６日～２８日】（本社）：紙面の構成

２　研修から学んだこと

Ⅰ研修を通して学んだこと

（１）学校教育と民間企業との違い：公教育との違いは①利潤の追求。常に他社との競争で売り上げや発行部数などシェアの拡大を図っている。②景気変動の影響。広告収入の減少など景気悪化による影響が大きい。③社会的なかかわりの大きさ。地元新聞社ということで地域とのつながりが非常に深い、など。

（２）新聞社の役割：新聞は売れればいい訳でなく①真実を伝えるという使命と②社会正義という崇高な理念のもとに作られている。確実な情報の提供と現代社会への問題提起という役割を持つ。

（３）新聞社の仕事の多様性：紙面を作る編集局、印刷局、本などを作成する出版・メディア局、各種イベントを企画、運営する事業局、広告局など多岐にわたる。エフエム群馬やコミュニティラジオ局にはニュースや記者の出演などを通じて情報提供も行っている。県内の各種イベントの主催も多く地域への貢献度も高い。

（４）コミュニケーション能力：日々の取材を通じて人とのかかわりの中から学んでいる。気持ちよく取材に応じてもらうための適切な質問、相手の意図を的確に捉える力が重要。

（５）幅広い知識と教養の必要性、伝えることの難しさ：取材内容は他分野にわたり幅広い知識が必要であること、事実を明確に伝えるための表現能力の豊かさが必要。

（６）記者の視点、瞬時の判断力と行動力：どんな記事をどう書くか。何に焦点を当てるかは記者によって変わる。何が重要なのかの判断や一枚の写真にどれだけの情報を盛り込めるか、一瞬を逃さない判断力と行動力が求められる。

（７）チェック体制とチームワーク：記事はデスクがチェックし、整理部を経て再度デスク、報道部長、編集局長（局デスク）と複数の目で何重にも確認する体制が組まれている。記者は常に現場のキャップやデスクの判断や指示をあおいで対処している。

Ⅱ学校とのかかわり

（１）外からの視点

取材で学校を訪れる機会も多く外部の立場で教育現場を見ると、今まで気付かなかったさま

ざまなことに気付く。元気にあいさつができ、生徒がいきいきとした表情をしている学校は印象がいい。社会に出るまでの準備期間としての位置づけを改めて感じるとともに、社会人としての基本的な生活習慣を身につけることの大切さを実感した。

（２）学校の役割：次世代を担う子ども達を育成すること。未来に関われる仕事という大きな魅力を再認識した。学力はもちろん人間性を養うことが学校教育の大きな目的であり、多方面からのアプローチが必要。

（３）研修を通じて感じた学校の課題

ⅰ地域との連携：人間の成長を助けるのは人との出会い。部活動の指導や進路指導、生徒指導全般にわたり地域の助けを借り多くの人の経験に触れさせることも大切ではないか。

ⅱ情報の共有と連携の必要性：担任が抱え込みがちな生徒の問題をもっと組織的に解決することができないか。保健室や教育相談はもちろん、教科担当も含め学校全体で共通認識を持つ必要性を感じた。

ⅲ学校の枠だけでなく社会全体の枠から生徒を捉えることの必要性：人はさまざまな考え方を持って人生を歩んでいる。広く社会全体とのかかわりから生徒個人を見ていく大切さを感じている。

Ⅲ職場や生徒に還元できること

（１）専門性を生かした仕事の分担とチームワーク

編集局の中にも写真部や運動部、経済部など専門部がおかれ、市政や、警察、裁判など各支局でも役割分担が決まっている。専門性を生かしつつ他の部署とも連携、協力しながら仕事が進められている。横の連絡、縦の連絡ともに綿密で滞りない。学年や各分掌、保健室などとの連携に役立てたい。

（２）教科での還元

生きた社会勉強を積んだ。様々なジャンルの講演会にも出かけ多くの知識をえ得ることができた。今まで以上に新聞を活用した授業を行い社会に目を向けることの大切さを伝えたい。取材を通じて得た知識を教科指導に活用したい。

（３）進路指導・生徒指導での還元

取材や新聞社の方々との出会いで多くの人の生き方に触れ、多くの人生観を学ぶ機会にもなった。どんな人生を生きるのかは人それぞれであり多様な価値観があることを進路指導や生徒指導に生かしたい。

３　所　感

（１）新聞社との共通点：プロ意識と高い倫理観を持って社会正義を追求し、オピニオンリーダーとして未来を切り開く新聞社。理想を持って未来社会を担う人材を育てる学校。ともに人と社会をつなぎ未来を作る仕事という共通点を感じた。

（２）自己評価：研修を通じて身につけたコミュニケーション能力、瞬時の判断力、行動力、積極性、知識、チームワークなど、すべてが人間としての視野を広げ、今後の教員生活を送る上で大きな財産となった。教員はさまざまな生徒や保護者とかかわり、個人や家庭や社会が抱えるあらゆる問題に対処しなければならない。人間性の豊かさやバランス感覚の良さが求められる。すべての経験が教員としての資質の向上につながったと感じている。

（３）終わりに：新聞社という地域社会と深くかかわる職場で研修できたことに感謝したい。たくさんの人に出会って話を聞く機会をもらい、さまざまな考え方に触れることができた。別の職業から世の中を見ることで多角的なものの見方もできるようになった。学校について貴重な意見をもらうこともあり、考えさせられる場面も多くあった。社会全体に目を向けることの大切さと個人の内面を感じとることの大切さの両方を学んだ。かかわったすべての人たちから多くを教えてもらった吸収の一年だった。